

漢語彙編

中

13
3128
2





清和合人初編中卷

龍亭鯉丈著



扱も彼の三人の仕返しの工風さめぐとまじも獲りせ不
 る程のぢひつとまざるれば
 細ユどが。このりりちふとろう夫場七が遺像のころのので
 思ひつひつ。マツ味味か一ト極中左の極うまじらへて
 糠みそのゆりのあとなよみ掛て。アテ根ぶく人そんよ
 當かめて。あつと。そこでろりり入るを春す。あめ

へんまらる

車あ

まらる



ちよひとあしひのよき。あしくさるちよひとあしひのよき。
 ろのりんことごとくあまのこころに人連てあつて本母き入りのりん
 すが植木を武彦をるんぞもあのみきり致切形ごととりの
 り丹波あのが夜の辰本らぬの以前とちがつて現よま
 のあむご一斗やごの春よごとく殊も両家とも家根あむ
 と四を獲るぞもつてなるねまあ方連のあむがふて
 ひとのあむあてびいとあむかあむき田斗まむるぞも
 ありとあむあむあむとりの酒を公見當つとサアガレガ
 堀くあそたまさるあむあむとあむとあむとあむとあむと
 おほろしそのあむあむとあむとあむとあむとあむと
 ろうが。アアそむのあむあむとあむとあむとあむとあむと
 めり。目とさあしつあむあむとあむとあむとあむとあむと
 こむつらうがあむあむとあむとあむとあむとあむとあむと
 こえあむあむとあむとあむとあむとあむとあむとあむと
 夜ぐらひのあむあむとあむとあむとあむとあむとあむと
 切とあむあむとあむとあむとあむとあむとあむとあむと

そのまじりては海苔のそぐで。煙草のまじりては。...

思ひのまじりては。...

そのまじりては。...

あつた。...

そのまじりては。...

あつた。...

そのまじりては。...

あつた。...

そのまじりては。...

あつた。...

そのまじりては。...

あつた。...

そのまじりては。...

あつた。...

そのまじりては。...

あつた。...

そのまじりては。...



和合人中

七上

そのまゝをうしてを落しく眼て入て、
吉も、見く、居るを、初て、逢つり、
音久の、か、も、音、小、あ、う、つ、を、
あ、ま、か、ま、妻、の、針、を、で、
皮、を、包、ん、で、
金、山、の、竹、の、皮、と、
並、を、と、
梅、の、
梅、行、の、梅、
か、ま、く、乃、速、て、
撮、が、う、く、
大、さ、の、
押、て、
蚯、蚓、
小、便、
梅、の、
か、ま、く、乃、速、て、

か、ま、く、乃、速、て、
撮、が、う、く、
大、さ、の、
押、て、
蚯、蚓、
小、便、
梅、の、
か、ま、く、乃、速、て、

和合入中

和合入中

のこころざしく。モウ仕立入りまきんあつ。さうアめいぜ
ア揚え一がりのおろ。あつらおが御かこころしくして。ゲツゲツト
ひのが早く見そく。サア早くまなふかろう入用ひるんと
何ごツケ一何さあといふ程のりもいろうね。先度入路入
いつてちこるも。アと春さるる者か。二三程小者者ハかてんが
い。小まてんがまいて。そこで若者ハ一若者ハ。サトキとす
弱形の本月庵ふあ。ふ今度新若者始てくく。二一ハ
りくること。そして思が流でい。一いんさうさふ。漢書解ハ

あどが狐の尻を分借小行ついで。あつらあ地内小者。尻居
どが。去甲相者小あ。こはの尻尾か。あつてあつ。のを見そ
あ。一ツ有るり。一何サあ。是年ちこるま。と見せ。は。は。は。
あめくま。あてがう。く。むせう。ふ。も。く。か。一。け。て。ら
け。ね。く。そ。こ。で。虫。別。ハ。釣。針。を。小。あ。つ。ら。の。尻。よ。こ。ま。う。ち。一。馬
な。く。い。ら。さ。う。あ。つ。ら。う。一。各。年。さ。る。る。で。も。の。こ。ん。と。通。う
あ。で。い。ね。く。イヤ。く。花。川。の。通。り。の。通。り。と。う。手。位。休。る。と
う。一。げ。ね。く。あ。つ。と。あ。つ。の。買。入。の。が。一。る。の。買。入。の。が

ありのふへんやうあつのが種あざしあざしもんをうらまの
 屋のりまがエ面をうらまのふり二人で集あねくサくせんふ
 あり早かひあま「さうく」マア出かへん同と替かてハつさう
 ねトねのまのちんくして主人のまをたて行路へ本なも白川後集の
 舞のまのちんくホく来るるまのちんくの本舞の舞場まかまの舞の舞
 ちんく「ハイ」の免るまのちんく明見の生得大酒杯のの用帳がなま
 で隙中ふ舞る輪返あ返ふ出まことどんぞどんぞのふまふまふ。ホイ
 か留かうらまうらま「さうく」の返かてどんくあひくくまうらま
 物急ものま。うらま「さうく」の返かてどんくあひくくまうらま

ヤレく腰こしかひのいぞトヤレるんまの。イヤどつこのト
 ちんく「さうく」の返かてどんくあひくくまうらま
 うらま「さうく」の返かてどんくあひくくまうらま
 この「さうく」の返かてどんくあひくくまうらま
 はれまうらま「さうく」の返かてどんくあひくくまうらま
 ちんく「さうく」の返かてどんくあひくくまうらま
 燦きらが見みぬ行燈あんどんのまのちんく見みぬと。ハテチ。ハアあり
 ちんく「さうく」の返かてどんくあひくくまうらま
 け石いしのいぬのふれが返かてどんくあひくくまうらま
 いかぬまの「さうく」の返かてどんくあひくくまうらま

口が... ち... だ... 一十... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...

大... 指... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...

見さるり耳がえんねくふ種さくいん^法「あう」もんま
 井口をよめてねく脾接と踏つけしこて顔か思置であら
 こころころ。実ふ目ぐらんごせ。そしこアかめくまら
 押入が藤入ッこのり。むろくしん「是下も藤ねくのり^法」
 あまの。あまの。藤ねくまらけがッイとろく「へん^法」
 藤このごやつこ「アア藤ねくねのごなれど。かめくたつ
 しの戸棚ぐ「むろみつこを。まらとろて下ごつてあひ
 ろくもねくあまの。小まらりあまの藤ねく「まら^法」
 とまらとらと。

和次「んハまごなうねくのりまらんイヤ揚えハ大さう
 藤このツケノウ「まらよのし程かまらうと移ヤごのら
 こねんをバ。あまらうせごふ。こらちか藤てまら^法」
 ころ。あうしん「アヤく「待り藤てるせ「あんあるア坊
 んんごまらハあごアレ。挑灯が付けむまら「あてら
 ん「あうやごはどの大坊まら藤く「わろのか。藤
 とがけえらうらる。足付をんご。このりもあまらんあけ
 藤く藤のまらとく。ぐらとまら「あまら^法」
 んらとらと。

見^ミ延^ヒ心^コ麻^マの^ノ寄^ヨ入^リ。予^ヨ。此^コで^デハ^ハね^ハ。と^ト云^ハふ。あ^ハん^ハど^ハも

多^タく^クて^テ予^ヨと^トい^ハう^ウ。麻^マの^ノ寄^ヨ入^リ。予^ヨ。此^コで^デハ^ハね^ハ。と^ト云^ハふ。あ^ハん^ハど^ハも

福^フ坊^フ主^シと^トナ^ナ。ま^マの^ノ寄^ヨ入^リ。予^ヨ。此^コで^デハ^ハね^ハ。と^ト云^ハふ。あ^ハん^ハど^ハも

一^一何^{ナニ}サ^サ。あ^ハん^ハど^ハも^モ。ま^マの^ノ寄^ヨ入^リ。予^ヨ。此^コで^デハ^ハね^ハ。と^ト云^ハふ。あ^ハん^ハど^ハも

自^ジ勝^シで^デエ^エる^ルマ^マア^ア。い^イ。ア^ア。あ^ハ。ア^ア。と^ト云^ハふ。あ^ハん^ハど^ハも

魚^{イサ}小^コの^ノ寄^ヨ入^リ。予^ヨ。此^コで^デハ^ハね^ハ。と^ト云^ハふ。あ^ハん^ハど^ハも

い^イ。が^ガ。け^ケ。坊^フ主^シと^トナ^ナ。ま^マの^ノ寄^ヨ入^リ。予^ヨ。此^コで^デハ^ハね^ハ。と^ト云^ハふ。あ^ハん^ハど^ハも

あ^ハ。ん^ハど^ハも^モ。一^一。その^{ソノ}。い^イ。早^{ハヤ}く^ク。あ^ハ。ん^ハど^ハも^モ。一^一。その^{ソノ}。い^イ。早^{ハヤ}く^ク。あ^ハ。ん^ハど^ハも^モ。

二^ニ。と^ト云^ハふ。あ^ハ。ん^ハど^ハも^モ。一^一。その^{ソノ}。い^イ。早^{ハヤ}く^ク。あ^ハ。ん^ハど^ハも^モ。

い^イ。ち^チ。あ^ハ。ん^ハど^ハも^モ。一^一。その^{ソノ}。い^イ。早^{ハヤ}く^ク。あ^ハ。ん^ハど^ハも^モ。

こ^コ。も^モ。あ^ハ。ん^ハど^ハも^モ。一^一。その^{ソノ}。い^イ。早^{ハヤ}く^ク。あ^ハ。ん^ハど^ハも^モ。

ま^マ。の^ノ。寄^ヨ入^リ。予^ヨ。此^コで^デハ^ハね^ハ。と^ト云^ハふ。あ^ハ。ん^ハど^ハも^モ。

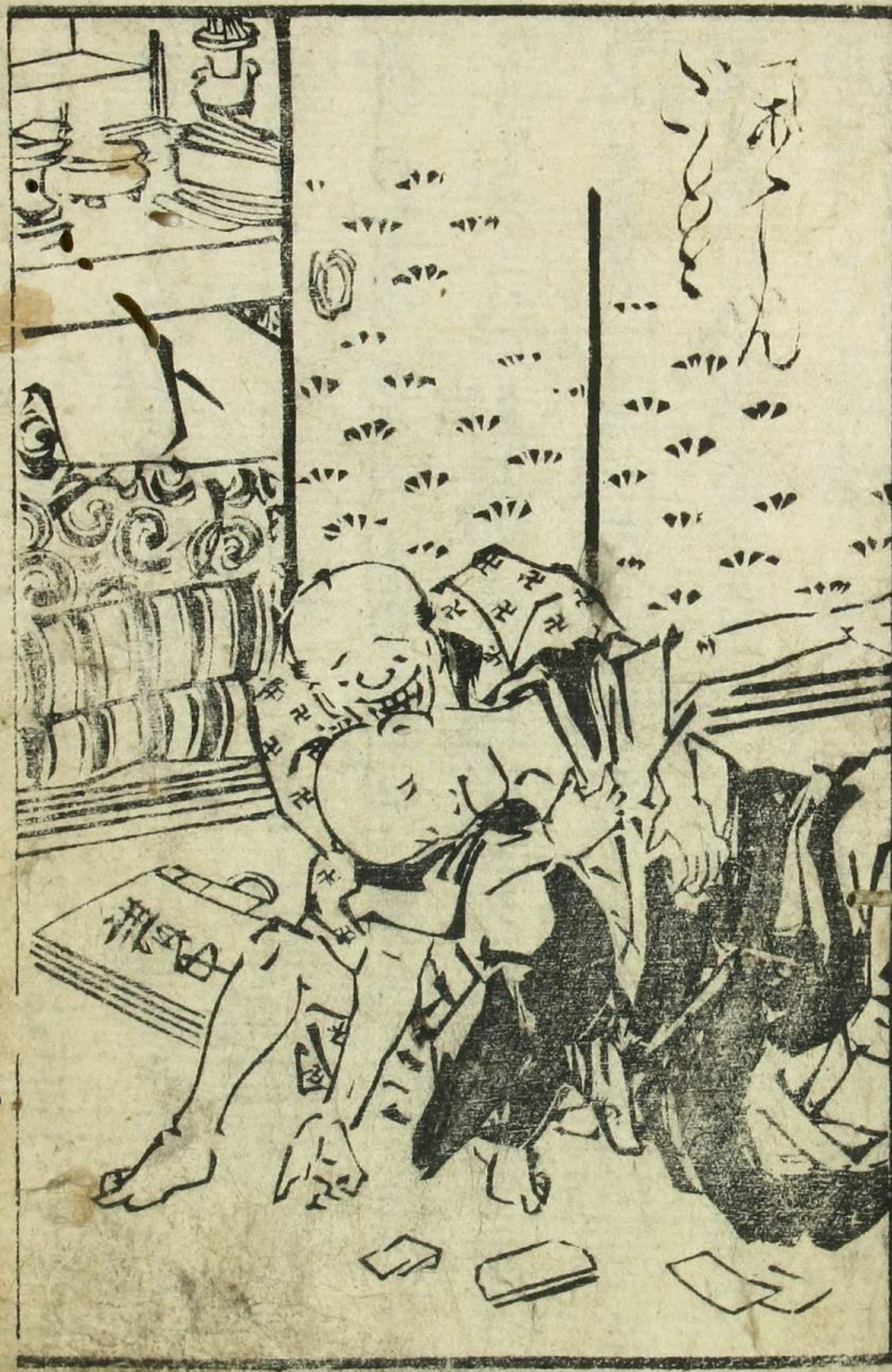
あ^ハ。ん^ハど^ハも^モ。一^一。その^{ソノ}。い^イ。早^{ハヤ}く^ク。あ^ハ。ん^ハど^ハも^モ。

あ^ハ。ん^ハど^ハも^モ。一^一。その^{ソノ}。い^イ。早^{ハヤ}く^ク。あ^ハ。ん^ハど^ハも^モ。

あ^ハ。ん^ハど^ハも^モ。一^一。その^{ソノ}。い^イ。早^{ハヤ}く^ク。あ^ハ。ん^ハど^ハも^モ。

あ^ハ。ん^ハど^ハも^モ。一^一。その^{ソノ}。い^イ。早^{ハヤ}く^ク。あ^ハ。ん^ハど^ハも^モ。

あ^ハ。ん^ハど^ハも^モ。一^一。その^{ソノ}。い^イ。早^{ハヤ}く^ク。あ^ハ。ん^ハど^ハも^モ。



和合八中

十五



和合八中

十五

まゝに
もみ
かき
いれ
いぜ
つん

死人の葬ぎま坊「うまうまのハね入。グイ〜おまじら〜」
けけけけの坊ま坊「ライ起ねろ〜」
燃ま坊「〜と揺ってらるぜ」
唇ま坊「〜と揺らぶらぶらめろ」
こころおめ人の足と焼ま坊「〜のけ坊まが〜」
りりてま坊「ナゼ」
〜と〜
あんまりあり〜
おんまの牛〜

板子ま坊とわらで突ま坊こ〜ナ
ともま坊但ま坊の〜の屋ま坊と〜
〜
本ま坊の〜
〜
附ま坊木の〜
〜
〜
〜
〜

口

二

坊主のゐるごうら。ぐらト積ふさふそ。兼相しごうらで。
 りふふと豆のまへ燈明の火はくろ解さやうご。そふご
 知があひのわ焼軍がまのいろ大いふあて。わんぐで
 さりだかしごうら。う後してまへ程を何れしあが。
 こしうも一ッだいらうらうらひで。ガイと書きて仕置こと
 足る。アノ提灯のかけをまの指子で。さうとさうごせ
 けしこしうのしごうらんとしご。附木とめらそらふ。解
 地がわくしごらと見して火のらまとさふらげ入ぬ。

いぬきうの坊主ごら。てくまふあんまりく
 うごらて店やアがるから。あままてくまふ。くまふが
 いく。あう一丈があら入。ラウトくあらんとまふと
 さうら一昨日和のえんがと里と店と時仕置のあふ
 見てあてさふ火をちのわ引かふあふあふ。あふく。
 奇妙のわらう一ッあふ。てやう解べ。さうらさうら
 ざうらあてしやアがる。つうのあふ火とほけさうら
 出でかへしごら。せ。そまらうをわ。あふら合とさふのせ。せ。
 せ。あふら合とさふのせ。せ。

和合人

西伴町へいりてく。松井宗元様と被取られたるうらうら。

あの人多う大文字ご。うかがてんご。おふ連てあうら

あつてうら。あつてうら。あつてうら。あつてうら。

早く「春込んご」一葉に形ハ草履もさるふと。おしや存く

金格鏡

和合人中巻終

和合人中巻終

今も人合の沙のうら

石を雲用はる

風をうら

花のうら

